

→ **カーボンニュートラルの実現** 再生可能エネルギー100%を目指して 特集:TCFD提言に沿った情報開示

カーボンニュートラルの実現

JFRグループは、2021年、マテリアリティを「低炭素社会への貢献」から「脱炭素社会の実現」へ改めました。当社グループは、気候変動問題の解決に向けた強い意志のもと、これまでの取り組みをより加速させ、カーボンニュートラルの実現を目指します。

野心的に取り組むScope 1・2温室効果ガス排出量削減

当社グループの2030年Scope 1・2温室効果ガス排出量削減目標(2017年度比)は、2019年に「SBTイニシアチブ※」の認定を取得しています。2021年、マテリアリティの進化に伴い、削減目標を従来の40%から60%に引き上げました。

また、2021年5月に改定した役員報酬ポリシーでは、業績連動報酬を決定する指標として、Scope 1・2温室効果ガス排出量削減目標を設定し、気候変動問題に対する経営陣の責任を明確化しました。

今後も、当社グループは、削減目標達成に向けて、再生可

能エネルギーの切り替え拡大に加え、照明のLED化や社用車のEV化拡大に取り組み、脱炭素社会の実現を目指します。

※ 産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑えるため、科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標達成を推進することを目的とした国際的イニシアチブ



2020年度 Scope 1・2温室効果ガス排出量実績

当社グループの2020年度温室効果ガス排出量は、132,106t-CO₂となり、2019年度と比較して18.7%削減となりました。当社グループは、2020年度のScope 1・2温室効果ガス排出削減目標を4.0%削減と設定していましたが、大幅に削減目標を上回りました。

また、当社グループの温室効果ガス排出量は、SBT基準年である2017年度と比較しても32.0%削減となり、SBT目標達成に向けて順調に推移しています。

📄 → Scope 3温室効果ガス排出量

2020年度 Scope 1・2温室効果ガス排出量実績

		2020年度		2019年度比		2017年度比 (SBT基準年)	
		排出量 (t-CO ₂)	削減量 (t-CO ₂)	削減率 (%)	削減量 (t-CO ₂)	削減率 (%)	
目標	Scope 1・2 合計	156,007	▲6,501	▲4.0	▲14,562	▲19.6	
	Scope 1・2 合計	132,106*	▲30,402	▲18.7	▲62,048	▲32.0	
実績 (内訳)	Scope 1	11,983	▲3,231	▲21.2	▲4,069	▲25.3	
	Scope 2	120,123	▲27,171	▲18.4	▲57,979	▲32.6	

※ ロイド レジスター コオリティ アシュアランス リミテッドによる第三者保証取得

創エネに向けた取り組み

当社グループは、電力をはじめとするエネルギーの安定的な調達が非常に重要なリスクになると考えています。

今後、自社施設をはじめ、遊休資産を活用した創エネ施策を検討し、再生可能エネルギーの自家消費拡大、およびエネルギー源の多様化によるレジリエンスの強化に取り組めます。

現在、大丸京都店は、店舗の壁面に太陽光パネルを設置し、デジタルサイネージや外部サインにかかる電力の一部をまかなっています。